

議事録

日本学術会議 物理学委員会 IAU 分科会 (第 25 期第 2 回)

日時：2021 年 2 月 10 日 (木) 14:50～15:50

場所：オンライン会議 (新型コロナウイルス感染症対策下のため、
ZOOM ビデオ会議システムを使用。)

出席者：林、渡部、山崎、生田、相川、浅井、今田、佐々木、新永、須藤、住、田代、田近、
千葉、深川、藤澤、観山、村山、

欠席：奥村、梶田、坂井、常田、藤井、山田

オブザーバー：山岡 均 (国立天文台)、大石雅寿 (国立天文台)、富田晃彦 (和歌山大学)、
岡 朋治 (宇電懇委員長)、野上大作 (光赤天連運営委員長)、
鶴 剛 (高宇連会長代理)、荻尾彰一 (CRC 実行委員長)、
当真賢二 (理論懇運営委員長)、
佐々木浩子 (日本学術会議事務局国際室)
(順不同、敬称略)

(Q) 質問 (A) 回答 (C) コメントをあらわす。

1. IAU 会員推薦について

資料 2、3 の情報にもとづいて IAU 会員への応募者の確認を行った。日本では当分科会において承認した方々を IAU へ新会員として推薦している。新会員の承認は毎年行われることになっており、今回は 6 名から応募があった。うち 1 名は天文学分野の博士号を取得していないが、推薦状によって同等の資格を持つことを確認した。審議の結果、6 名全員を IAU Nomination Committee へ推薦することとした。なお、ジュニア会員への応募はなかった。

2. IAU 名誉会員の推薦について

渡部委員長から国内での名誉会員の推薦状況について報告があり、IAU への推薦のための議論を行った。名誉会員制度は前回の IAU 総会から実施され、名誉会員が承認されている。IAU 会員以外であって、その国の天文学に大きな貢献のあった方を対象とし、3 年に 1 度、国ごとに推薦できる。例えば大型望遠鏡の建設・運用に携わった技術者、宇宙科学の発展に寄与した政治家、天文学の普及に貢献した科学雑誌の編集者など、様々な職種の方が対象となる。

韓国・釜山の総会に向けて日本から 1 名を推薦することを目指し、2021 年 1 月に日本天文学会のメールリスト上で広く推薦を呼びかけた。合計 4 名の推薦があり、既にお亡くなりになられた 1 名を除く 3 名を対象として分科会で議論を行った。うち 1 名について、名誉会員としての資格を満たしており、天文学への貢献が十分であることが確認できたため、

日本として IAU へ推薦することにした。

なお、今回は天文学研究分野に近い候補者を推薦することになったが、国際天文学連合からの 3 年に 1 度の受賞は名誉なことであり、ぜひ幅広い分野・職種から候補者を推薦できると良いという意見が複数あった。渡部委員長から、今後は広い視点で分科会が積極的に候補者を探すことにしたいという提案があり、了承された。

最後に、渡部委員長より、国際的な場で活躍できる日本人は多く、まだ会員になっていない研究者が周囲にいれば、ぜひ会員になることを推奨してほしいとの呼びかけがあった。国情や GDP などが考慮された分担金のカテゴリは、しばらく変化しないと考えられる。

(C 観山) 今回日本から初めて名誉会員の推薦を行うこともあり、今後どのような方が対象となるのかメッセージとなることも考慮して推薦した方が良い。

3. IAU シンポジウム・総会等の状況について

総会の状況について、渡部委員長より資料 1 に沿って報告があった。釜山での総会は 2022 年に延期されたが、役員の選出等はオンライン会議で 2021 年の夏に行う。2024 年の総会は南アフリカで開催の予定である。2027 年の開催地の立候補受付は 2022 年の総会に合わせた日程まで延期される。

広島で開催される IAU シンポジウム IAUS 360 「Astronomical Polarimetry — New Era of Multi-Wavelength Polarimetry」について、新永委員より準備状況の報告があった。2021 年 3 月 22~26 日の開催を目指して世話人の尽力により準備が進められている。オンラインを基本とし、オンサイトを組み合わせた開催となる。

APRIM2023 の日本招致活動について、渡部委員長より報告があった。福島会場は確保されており、準備が進められている。開催地決定の機会となるはずだった APRIM2020 そのものは中止となったが、3 月半ばにオンラインで開催地決定会が行われる予定である。他国も立候補を表明しており、日本で開催できるかは決定会での判断による。

4. Recommendations to Keep Dark and Quiet Skies for Science and Society について

大石氏より、資料 4 にもとづいて報告があった。衛星のメガコンステレーションによる天文学への影響の懸念が高まっていることを背景とし、社会一般に対して暗く静穏な空の大切さを伝えることも目的として、2020 年 10 月にワークショップ“Dark and Quiet Skies for Science and Society”が開催された。特に光害を国際的に解決する枠組み作りのきっかけとするために、国連宇宙空間平和利用委員会 (COPUOS) が開催を提案したものであり、IAU も共催者となってオンライン形式で実施された。ワークショップで取りまとめられた報告書は、IAU では既に承認しており、報告書の概要と対策のための勧告は COPUOS へ提出されることになっている。

・ 報告書：<https://www.iau.org/news/announcements/detail/ann21002/>

(C 新永) ワークショップの目的には電波干渉からの保護も含まれているということだが、2016 年の Radio Frequency Interference の国際会議に参加した際、日本から規制対象の周波数の電波が出ている問題点が欧米から指摘されていたので、報告したい。

(A 大石) 本案件の漏れ出しは意図的なものではなく、関係者の対応によって問題は既に解決されている。

(C 渡部) 何か、この種の問題を耳にした場合には、国立天文台の周波数資源保護室（現在、大石氏が室長）に情報を寄せてほしい。

5. その他

(1) NAEC 日本チームの活動について

OAE (Office of Astronomy for Education) の NAEC (National Astronomy Education Coordinator) コーディネーターである富田氏より、資料 1 に沿って NAEC 日本チームの活動について報告があった。日本天文教育普及研究会のウェブサイトに「IAU 天文教育コーディネーターWG」のページが開設され、関連の資料や情報がまとめられている。OAE/NAEC によるコンテスト等のイベントも開催されており、個人が貢献できるものとなっている。

- ・ IAU 天文教育コーディネーターWG: <https://tenkyo.net/category/wg/iau/>

以上